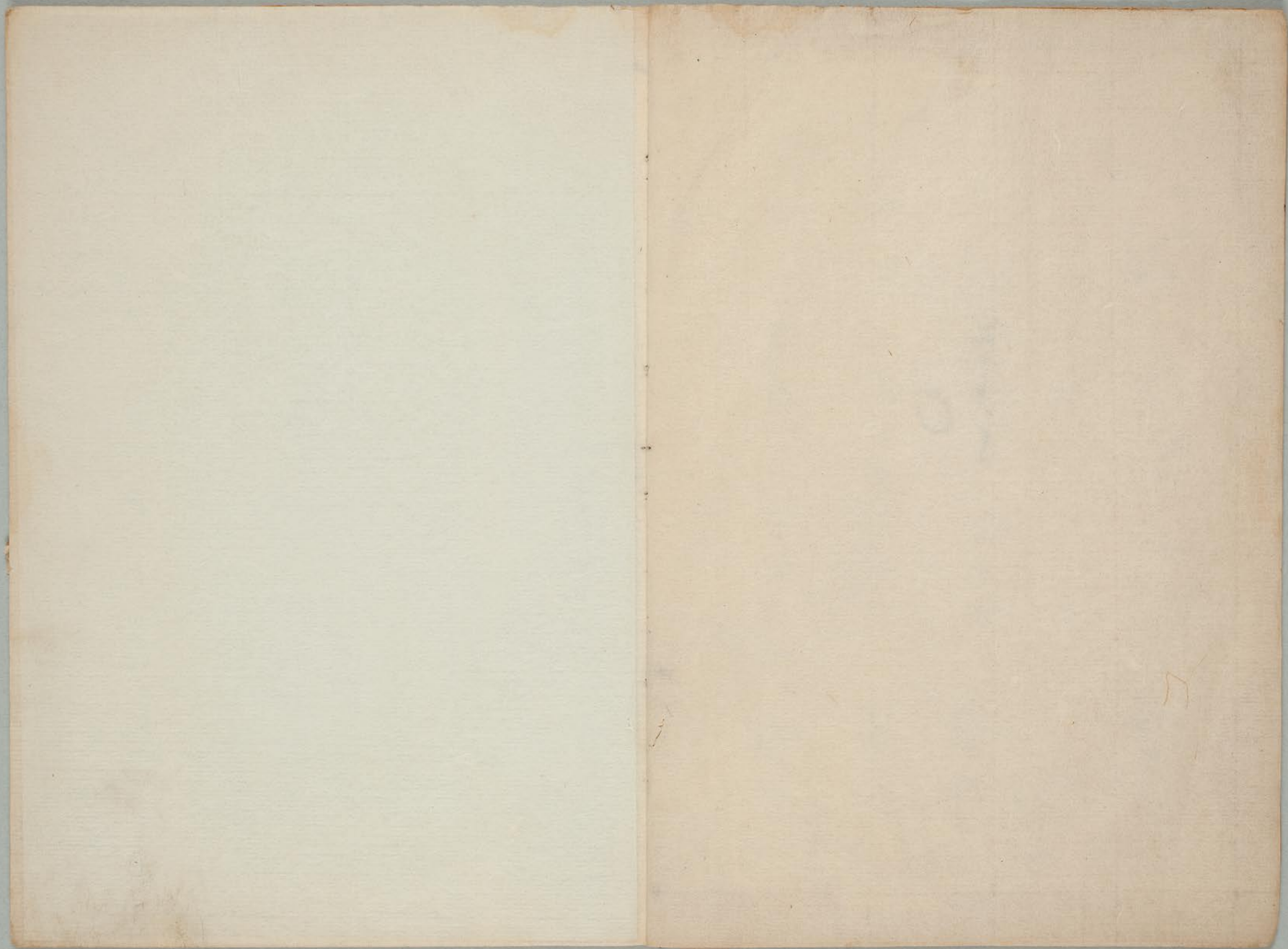


百人一首五哥之秘訣

0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27



百人一首五哥之秘訣切命

二條家

足成山乃尾の
天の系ゆりきり
我りちたのきり
是のほきり
おぬ人をよみ酒の

以上

他流

のきり酒せきり



柿本人麿

安倍中麿

喜撰法師

壬生忠峯

權中納言定家

中納言家持

長頭丸

士生忠岑

夕之口門のいふ

大納言經信

和四ノ系

法性寺入道
前開白大政大臣

世の中

鎌倉君右大臣

以上

右者玄旨法印御傳受之趣也雖每上之極
秘依年來之取望至今相傳訖如誓盟猥不可
漏脱者也

慶安三年三月二十八

長頭丸

同五哥秘訣傳書

二條家

足元寺の山名尾の

むすほり

山名尾の傳書乃實多之雄雄か
のりおきれハ序おれハ甚深のこ
り是方吾夜をてしるふありあ
ゆる日傳のあり

天に系ありけられハ

かうゆけ

け作有久文及とらあハ代とも
上提り人ありハ所ハ明別百星
ある

来ありまうら 高るや二筆のし理れ月鳴
ふふふふしてあふれたるは是又文子
流道の内之交通を天北子んををを
の程をせしむる道理と云ふも人

我房ハ初れまうら ません

せら色受想行識よりして六塵は空法
山と人なりまうら仍て我もさあをせしむ
得て一ををせしむるを何をもして
お世えは物之王舎場ふすををををを
うらふふふふふふふふふふふふふふ

初のまうらせつら 本覚まわら初らまうら
取捨悟ら只一人ふ有らまうらまうら
居のつらまうら ません

咲らふ射してまうら音あつら何をもして
もひてもらんよ咲れまわの所らまわら
らまうら一咲やらまわらぬらまわら
飯色らまうら音流れらまうら

おぬ人とまうらまうら 定家

けまうらまうらまうらまうらまうら

中へ極れまうら

他流

かきつゝのついでに

家持

星白陰陽てくらむ物と通るものなり
人かきつゝのついでに
てくらむものなり
かきつゝのついでに

ついでに

きり

かきつゝのついでに
ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

天子に侍る者其の由りて國白
天子小補佐一なる人ききりていふ
は職のまゝいふとていふ

世の中ハ常カキ 縁々ハ右府

いふと天子ハ清カキとていふ
をねるもいふ大は職の
常カ道ハききりていふ
もいふ常カもいふ常カあもいふ
哉之世ハ常カハいふ格別也

百人一首讀方清濁

天智
人磨

持統

山邊赤人

喜撰法師

小野小町

陽成院 成ノ字ヒイテヨム

在羽原

文屋康秀

菅家

貞信公

貫之

右近

等 ヒトニトヨムハ非也

朝忠

謙徳公 徳ノ字濁テヨム

惠慶法師

大中臣

道信

儀同三司

伊勢太輔

深養父

祐子内親王家紀伊

基俊

皇嘉門院別當

皇太后宮大夫俊成

殷富門院

定家

道綱

赤深右衛門

經信

朝康

匡房

待賢門院

後徳大寺

式子内親王

雅經

家隆

系代作

向さちま 主ヲウトハ
ヨニス

八まきさくら

うまもし も神あり

いく夜 縁まゐる

かくら ふり

あも 高夜の

あ みか川

吹ら

清士のそま

ま まの

ま まの

ま まの

ま まの

ま まの

右五哥之秘訣切紙并聞書讀方清濁者

小男こころありりしに思ふまじし夜をこ
 してありとまじし情けなき世をまじりくわ
 せはしめて吾等身をまじりていりしよか
 かり吾等思ひし情けなき世をまじりてい
 情けなき世をまじりていりしよか
 かり吾等思ひし情けなき世をまじりてい
 情けなき世をまじりていりしよか
 かり吾等思ひし情けなき世をまじりてい
 情けなき世をまじりていりしよか
 かり吾等思ひし情けなき世をまじりてい
 情けなき世をまじりていりしよか
 かり吾等思ひし情けなき世をまじりてい

右之故事は國竟孝先降れ説最以て信之
 也

定案ありて 辛酉十月廿日

世雅判

44047

天明三年^{癸卯}春

上田久寛
写之

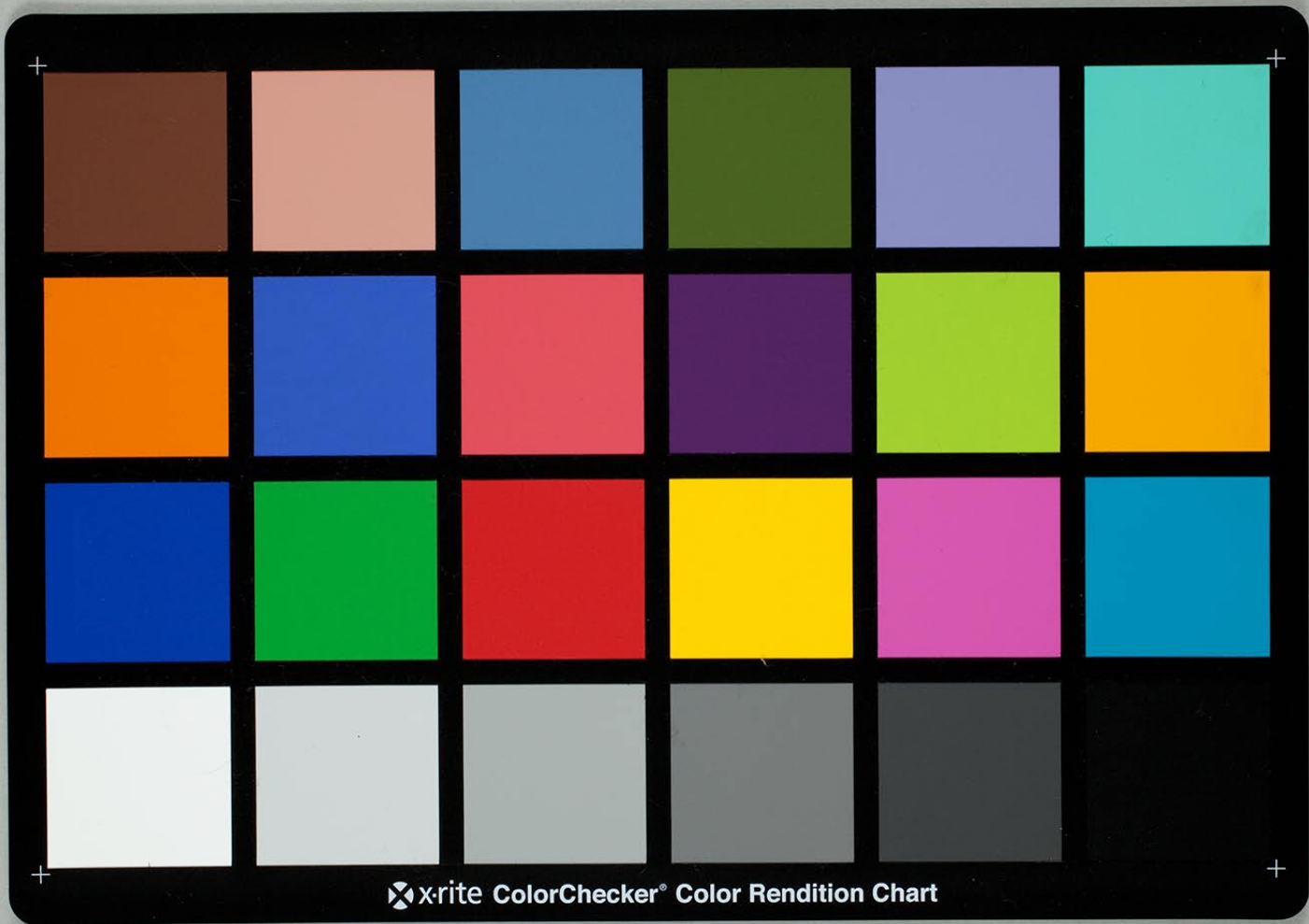
敬山美

卷

春日歌二首

春日歌二首





x-rite ColorChecker® Color Rendition Chart